

江戸期以前日本出版文化史年表

—国立国会図書館所蔵資料を中心に—

岡村光章 児玉史子
土屋紀義 戸澤幾子

はじめに

昭和63年11月21日より12月10日にかけて、国立国会図書館は「出版のあゆみ展—百万塔陀羅尼からCD-ROMまで—」を開催した。本年表の作製者たちは、この展示会の準備の過程で、江戸期以前の部分の出陳資料の選定、展示会目録の原稿執筆を担当した。この準備作業の一環として、出品候補資料を刊行年順にならべ、あわせて出版にまつわる若干の歴史的事項を併記したリストが作製された。

われわれはこれが、当館所蔵の日本の古典籍を、具体的なかたちで日本の出版文化史のながれのなかに位置づけるのに一定の役割を果たすことができると考え、延いては日本の出版文化史を簡単に通覧する手助けにもなりうると考えた。

しかし、このリストは、あくまでも展示会出陳資料の選定に資するために作製されたものであって、年表としては必ずしも十分なものではなかった。そこで、このリストに大幅な添削を加えて、本年表を作った。

ここでわれわれは、出版物の資料名をそれぞれの刊行年あるいは刊行年代につなげて列挙し、具体的に出版の流れを通覧することを主眼とした。その際、揭示資料を原則として当館所蔵資料に限った。また、年表に載せる場合、一部の例外をのぞいて極力初版本によることとした。したがって出版文化史上重要ではあるが、当館にこの基準に照らして適当な資料が所蔵されていない場合、あえて収録を見送った場合の少ないこともつけ加えておかななくてはならない。この点を諒とされ、かつ予想される不備についての御教示を賜れば幸である。

凡 例

- 1 記載する事項は「出版物」「出版者・出版業」「出版法制、その他」に分けた。
- 2 年号は原則として和暦・西暦を併記したが安土桃山時代以前は西暦のみとした。
- 3 記号については、次の通り。

- 「 」 書名
- < > 当館請求記号
- () 説明
- [] 年代の確定しがたいもの
- ⋯⋯ 一定期間にわたる事項
- 『 』 法令の内容を簡略に明示したもの

参 考 文 献

- 蒔田稲城 「京阪書籍商史」 出版タイムス社 昭和3
 上里春生 「江戸書籍商史」 出版タイムス社 昭和5
 小林善八 「日本出版文化史」 日本出版文化史刊行会 昭和13年
 川瀬一馬 「五山版の研究」 日本古書籍商協会 昭和45
 国立国会図書館参考書誌部編 「江戸以前版本挿絵文化史展図録」 国立国会図書館 昭和48
 今田洋三 「江戸の本屋さん」 日本放送出版協会 昭和52
 鈴木重三 「絵本と浮世絵」 美術出版社 昭和54
 名古屋市博物館 「名古屋の出版—江戸時代の本屋さん—」 名古屋市博物館 昭和56
 「文学 49巻11~12」 (<出版> I, II) 岩波書店 昭和56. 11~12
 今田洋三 「江戸の禁書」 吉川弘文館 昭和56
 長友千代治 「近世貸本屋の研究」 東京堂 昭和57
 川瀬一馬 「入門講話日本出版文化史」 日本エディタースクール出版部 昭和58
 Twitchett, Denis C., *Printing and publishing in medieval China* Frederic C. Beil, 1983
 福井保 「江戸幕府刊行物」 雄松堂出版 昭和60
 「葺屋重三郎と天明寛政の浮世絵師たち」 太田記念美術館 昭和60
 「週刊朝日百科日本の歴史 89」 朝日新聞社 昭和62.12.27
 「出版のあゆみ展—展示会目録」 国立国会図書館 昭和63
 「なにわ出版事情」 大阪市立博物館 平成1
 国立国会図書館図書部編 「国立国会図書館所蔵古活字版図録」 国立国会図書館 平成1
 張秀民 「中国印刷史」 上海人民出版社 1989
 藤井隆 「日本古典書誌学総説」 和泉書院 平成3

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
和銅 3年 (710) (奈良) 延暦13年 (794) (平安)	770 百万塔陀羅尼 「無垢浄光陀羅尼經」 <WA3-1> (日本最古の印刷物)	[この頃、曆本の出版業者が長 安・成都に存在したことを確認 できる]	751 この年建造の新羅の塔より陀羅 尼発見さる [曆の無断出版の禁止(中国)] 868 「金剛經」刊記明瞭な版本の最古 のもの(中国) 875 「日本国見在書目録」成立 現存最古の日本の書目 [10世紀半ば冊子体の書物の出現 (中国)] 975 雷峰塔陀羅尼「宝篋印經」 [中国で經書刊刻のこと文献にあり]
10~12世紀 天皇、貴族の発願による摺經、摺仏がおこなわれる			

1049 最古の摺仏の遺品

1080 最古の摺經の遺品

[平安朝摺經断簡] <WA3-32>

1088 春日版の先駆
(~室町末期)

1162頃「毘沙門天王画像」 <WA4-2>
(摺仏)

建久 3年
(1192)

[鎌倉時代初期] 「成唯識論」
(春日版) <WA3-11>

1195 現存最古の版木 興福寺蔵

1224 「仏母大孔雀明王經」 <WA3-12>
(東寺版)

(鎌倉)

1247 「往生要集」(日本人著述の最初の開版)

1248 「往生捨因」 <WA6-73>
(浄土教版)

1251 高野版開版の記録あり

1253 現存最古の高野版
(~江戸時代)

1277 「御請来目録」 <WA6-74>
(高野版)

南都・高野山・比叡山等で仏書出版

[11世紀半ば中国において活字発明さる]

「本邦書籍目録」
最古の和書の書目 鎌倉時代成立

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
延元元年 (1336) (南北朝)	1277 「大毘盧遮那成仏経疏」 (高野版) <WA3-6> 13世紀後半、五山版の刊行始まる (～室町末期)		
	1313 「虚堂和尚語録」 <WA6-26> (五山版)		
	1321 「黒谷上人語燈録」(平仮名交り 版本の始め：浄土教版)		
	[1332頃] 「妙法蓮華経」 <WA3-18> (消息経)		
	[鎌倉期] 「成唯識論述記」 <WA3-10> (春日版)		
	1339 「首楞嚴義疏注経」 <WA3-7> (師直版)		
	1342 「夢中間答集」(片仮名交り版本 では最古のもの：五山版) <WA6-9>		
	1359 「蒲室集」 <WA6-15> (天龍寺版)		
1364 正平版「論語」 (刊年明確な、わが国最初の経書 の開版)			

鎌倉末期から室町末期にかけて各地に地方版がおこなわれる

僧、武家による開版

応永 3年
(1392)

(室町)

1368 「了菴和尚語録」 <WA6-8>
(臨川寺版)

1374 「重新点校附音増註蒙求」
(五山版：陳孟榮刻) <WA6-63>

1383 「大報父母恩重經」 <WA3-23>
(挿絵入刊経)

1387 「新刊五百家註音辯唐柳先生文集」
(五山版：兪良甫刻) <WA6-14>

1410 「藏乘法数」 <WA6-7>
(大内版)

1416~1417
「大毘盧遮那成仏神変加持経」
(根来版) <WA3-16>

1481 「聚分韻略」 <WA6-51>
(仏書以外で出版された最初の
国書：薩摩版)

1528 「新編名方類証医書大全」
(医書のはじめ：阿佐井野版)
<WA6-22>

1536 「新刊勿聽子俗解八十一難経」
(医書挿絵本) <WA6-23>

[室町時代] 「五味禅」 <WA6-35>
(五山版挿絵本)

["] 「夢中間答集」 <WA6-87>
(足利で刊行)

1372 中国より渡来の刻工兪良甫
による開版

医家による開版

[朝鮮で活字版盛行]

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他	
(安土 桃山)	[室町時代] 「中州集」 <WA6-27> (五山版)			
	["] 「列子虜齋口義」 <WA6-65>			
	["] 「佛果圓悟禪師碧巖録」 (美濃版) <WA6-59>			
	[" 末期] 饅頭屋本「節用集」 <WA6-71>			
	1591 現存最古のキリシタン版 (～慶長の末年)			宣教師による開版
	1592 ドチリナ・キリシタン (キリシタン版)			
慶長元年 (1596)	1593 最初の古活字版刊行 (～寛永年間)	勅 版		
	1595 「天台四教儀集解」 <WA7-18> (現存最古の古活字版)			
	慶長 4年 「標題句解孔子家語」 (1599) (伏見版) <WA7-186>			

慶長 4年 (1599)	「古文孝経」 (慶長勅版)	<WA7-7>		
慶長10年 (1605)	「サクラメンタ提要」 (キリシタン版：二色刷)			
	夢梅本「和玉篇」	<WA7-67>		
慶長11年 (1606)	「帝鑑図説」 (秀頼版)	<WA7-9>		
慶長12年 (1607)	「文選」 (直江版)	<WA7-17>		
	「太平記」 (古活字版：片仮名交り)	<WA7-24>		
慶長13年 (1608)	「伊勢物語」 (文芸書版刻の最初：嵯峨本)		慶長14年 刊記の書店名の初出 (1609)	
	[慶長年間]「拾芥抄」 (年代のたどれる最古の古版地 図をおさめる：古活字版)	<WA7-46>		
	[“] [謡抄] (古活字版中稀な片仮名、平仮 名併用印本)	<WA7-208>		
元和元年 (1615)	元和元年 (1615)	「大坂物語」 (大坂冬の陣、夏の陣終了後、 直ちに刊行された古活字版)	元和元年 (1615)	「大坂卯年図」 (現存最古の瓦版)
元和 2年 (1616)	「群書治要」 (駿河版：銅活字)	<WA7-16>		

時代	出版物	出版者・出版業	出版法制その他
寛永元年 (1624)	元和 3年 「下学集」 <830-37> (1617)		
	元和 7年 「皇朝類苑」 <WA7-15> (1621) (元和勅版)		
	[慶長元和年間] 「職原抄」 <WA7-20> (慶長勅版を覆刻した整版)		
	寛永 4年 「寛永行幸記」 <WA7-154> (1627) (古活字版：絵巻)		寛永 7年・キリスト教関係書物輸入禁止 (32種の書物が禁書に指定される) ・中国船舶来書についての検閲 (書物目利) 始まる
	寛永 8年 「塵劫記」 (1631) (色摺)	この頃、貸本屋を兼ねた行商本屋が現れる	
	「せつきやうかるかや」 (現存最古の説教浄瑠璃版本)		
	寛永10年 「上古誹諧」 <849-26> (1633) <small>えのこ</small> (犬子集のうち)		
	寛永13年 「うすゆき物語」 <WB2-3> (1636) (仮名草子：丹緑本)		
寛永14年 天海版「一切経」刊行始まる (1637)			

	寛永15年 (1638)	「諸経要集」 (天海版)	<WA7-83>		
	寛永20年 (1643)	「待賢門平氏合戦」 (古浄瑠璃：丹緑本)	<京-328>		
	[寛永年間]	「うをのうた合・けだ物の 歌合」 (仮名草子：古活字版)	<WA7-175>		
	["]	「強盗鬼神」 (丹緑本)	<別63112>		
	["]	「ゆりわか大臣」 (丹緑本)	<京-189>		
	寛永末期に古活字版衰退す				
明暦元年 (1655)	明暦 4年 (1658)	「うぢのひめきり」 (古浄瑠璃)	<京-352>	明暦 3年 (1657)	諸商人仲間結成禁止
		「京 童」 (名所記の最初)	<京-13>	明暦 3年 (1657)	和本の軍書類を出版する際 には奉行所の許可を必要と する等の布令(京都所司代) ----- 最初の統制令
万治元年 (1658)	万治 2年 (1659)	「伊曾保物語」 (仮名草子)	<WA8-3>		
	万治 3年 (1660)	「源氏物語」 (京都：出雲寺和泉掾刊)	<856-10>		京都における出版盛ん。 出雲寺和泉掾等「十哲」と言 われる十軒の有力書肆あり

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
寛文元年 (1661)	万治 4年 (1661)	「むさしあぶみ」<841-35> (仮名草子：明暦の大火を描く)	[寛文年間] 江戸北町奉行渡辺大隅守、板木屋 に取締令を出す『軍書類、歌書類、 暦類、好色本類、噂事人の善悪その 外疑わしい書物は御番所（町奉行） へうかがいの上発行する』
	寛文 4年 (1664)	「金時洛陽入」 <は-76> (金平本)	
	寛文 7年 (1667)	「新撰御ひいなかた」 <別55210> (各葉ごとに、墨、淡墨、 藍、草色、紅等で一色刷り)	
	寛文10年 (1670)	「増補書籍目録」 <別14-23> (最初期の出版目録)	
延宝元年 (1673)	寛文・延宝の頃、赤本出現し、享保 年間に盛行す		寛文 6年「聖教要録」朱子学を批判し (1666) たため絶版 著者山鹿素行幽閑
	延宝 2年 (1674)	「御所ひいなかた」 <WB1-7>	寛文 9年「日本古今人物史」 (1669) <121-130> 宇都宮由的処罰
	延宝 5年 (1677)	「江戸雀」 <京-22> (江戸で最初の地誌)	寛文13年 前記と同様の町触れ江戸中 (1673) に出す
	延宝 7年 (1679)	「西鶴五百韻」 <京乙-284> (俳書：大坂 深江屋太郎兵衛刊)	

		「難波雀」 <別13-27> (大坂の地誌)		
	延宝 8年 (1680)	「余景作り庭之図」 (菱川師宣画) <WA32-16>		
天和元年 (1681)	天和元年 (1681)	「新增書籍目録」 <198-318> (値段の記載あり)		天和元年 偽本「先代旧事本紀」絶版 (1681)
	天和 2年 (1682)	「好色一代男」 <WA9-3> (浮世草子のはじめ：大坂 秋田屋市兵衛刊：初版は荒 砥屋刊)		天和 2年 寛文の取締令に『新作の <small>たしか</small> 髓 (1682) ならざる書物商売』の禁止 事項加わる
	宝暦・明和頃まで浮世草子通行す			
貞享元年 (1684)				貞享元年・寛文の法令の再令 (1684)・読売(瓦版)等の禁止令
	貞享 2年 (1685)	「姦男なさけの遊女」 <WA32-3> (絵本：菱川師宣画：江戸 鱗形屋刊)	大坂、江戸における出版活発	貞享 2年 「太宰府天満宮故実」絶版 (1685) <特1-2332> 原益軒著
	貞享 3年 (1686)	「好色五人女」 <WA9-6> (大坂 森田庄太郎刊)		
元禄元年 (1688)	元禄 3年 (1690)	「人倫訓蒙図彙」 <別13-58> (図解百科事典)		

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
	元禄 5年 「女重宝記」 (1692) <159.6-O691y>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">この頃より、有力書肆須原屋は武鑑と地図の刊行によって栄えた</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">京都で八文字屋全盛</div>	<p>元禄 7年 「鹿の巻筆」絶版 (1694) 著者鹿野武左衛門流刑</p> <p>元禄 11年・貞享元年の法令の再令 (1698)・重版類版の禁止の町触が出る(京、大坂) ・キリスト教に関する書物の販売禁止</p> <p>「太閤記」絶版 <別5523></p> <p>「当世百人一首」絶版</p> <p>宝永元年 「島原合戦記」絶版 (1704) <201-28></p> <p>正徳 3年・貞享元年の法令の再令 (1713)・実際の事件に取材した物語に対する取締り</p>
	[元禄 5年] 「万買物調方記」 (1692) <別13-19> (三都の案内記)		
	元禄 8年 「太平武鑑」 <157-51> (1695) (須原屋刊)		
	元禄10年 「百合若大臣」 <WA9-1> (1697) (絵入り狂言本)		
	元禄14年 「傾城色三味線」 <京-306> (1701) (八文字屋本のはじめ)		
宝永元年 (1704)	宝永 5年 「傾城反魂香」 <238-161> (1708) (浄瑠璃：宝永5年初演)		
正徳元年 (1711)			

享保元年
(1716)

享保年間に漆絵、紅絵はじまる

享保年間に赤本盛行す

享保 2年 「分間江戸大絵図」
(1717) (須原屋刊) <る-67>

享保 8年 「百人女郎品定」<別5641>
(1723) (風俗絵本：西川祐信画)

享保13年 「金の揮」 <は-72>
(1728) (歌舞伎役者評判記)

正徳6年 京都で本屋仲間公認
(1716)
享保元年 暦の版行・発売を板木
(1716) 屋11人に限定

享保 6年 江戸で本屋仲間公認
(1721)

享保 8年 大坂で本屋仲間公認
(1723)

享保 3年 享保元年の法令の再令
(1718)

享保 5年 舶来書籍輸入禁止措置の緩和
(1720) (キリスト教に関係しない書物の輸入を許可する)

享保 6年 新規商品停止令 (商品には
(1721) 書籍も含まれる)

享保 7年 これ以降の出版に関する基
(1722) 本的法令出る 『新奇、異
説に関する書物、好色本、
他人の家系の先祖に関する
書物、徳川家に関する書物
の出版禁止、新版に作者、
版元の実名を奥書に書く』

享保 8年 心中事件を絵草紙・歌舞伎
(1723) 狂言にすることを禁止
(近松劇への弾圧)

「百人女郎品定」絶版
<別5641>

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
	享保15年 「父の恩」 <WA9-8> (1730) (一部に彩色摺あり) 享保17年 「増広太平惠民和劑局方」 (1732) <W731-28> (吉宗の命による出版) [享保頃] 「ぶんぶく茶釜」 (赤本) <別53212> ["] 「浮世面帖」 <WA31-11> (墨摺絵：奥村政信画) ["] [御伽草子] <196-23> (「一寸法師」等23編を収め る版本)	享保年間、京都で小川多左衛 門、貝原益軒の著作多数刊行	
元文元年 (1735)	元文 5年 「吉原細見記」 <別5531> (1740) (鱗形屋刊)		元文 5年「大嘗会便蒙」絶版 (1740) <139-227> 著者荷田在満閉門
延享元年 (1744)	延享元年 見当をつけて摺る方法を発明 (1744) この頃の黒本・青本現存す この頃、紅摺絵行われる [延享2年] 「渡辺綱物語」 (1745) (黒本) <207-1724>		

[延享 4年] 「盛景両面鏡」
 (1747) (青本) <207-1736>
 寛延元年 (1748)
 寛延 2年 「古今奇談英草紙」
 (1749) ^{はなぶきぞうし} <211-603>
 (読本のはじめ)
 寛延 3年 「駿台雑話」 <142-54>
 (1750) (室鳩巢)
 宝暦元年 (1751)
 宝暦 7年 「早引節用集」
 (1757) <813-Se219 1757>
 宝暦 8年 「南郭先生文集四編」
 (1758) <145-85>
 (漢詩文：須原屋新兵衛刊)
 宝暦12年 「海の幸」 <197-121>
 (1762) (彩色摺絵本)
 宝暦13年 「物類品隣」 <特1-4>
 (1763) (平賀源内：須原屋市兵衛刊)
 明和元年 (1764)
 明和 2年 鈴木春信中心に錦絵出る
 (1765) 「万民大福帳」 <W114-19>
 (青本)
 「宋紫石画譜」 <り-4>
 (合羽摺：宋紫石画)

宝暦期に江戸の出版、上方出版の勢力圏から離れ独自の道を歩み始める

絵暦流行

明和 2年 「紅毛談」絶版<209-123>
 (1765) 後藤梨春著

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
	<p>明和 4年 「火流布略説」 <特1-3434> (1767) (平賀源内：須原屋市兵衛刊)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">洒落本この頃より流行す</p> <p>明和 7年 「遊子方言」 <京乙-116> (1770) (洒落本)</p> <p>「絵本舞台扇」 <別5649> (彩色刷役者絵本)</p> <p>「青楼美人合」 <WA32-5> (彩色刷絵本：鈴木春信画)</p> <p>「大日本道中行程細見記」 <198-36></p>	<p>明和 4年 名古屋の貸本屋大野屋 (1767) 惣八創業</p>	<p>明和 6年 「明和伎鑑」絶版<京-304> (1769) 栗本兵庫著</p>
<p>安永元年 (1772)</p>	<p>安永 2年 「当世風俗通」 <京乙-193> (1773) (洒落本)</p> <p>安永 3年 「解体新書」 <わ490.9-15> (1774) (最初の西洋解剖書：須原屋市兵衛刊)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">安永 4年 「金々先生栄花夢」 (1775) <207-2> (恋川春町画作：鱗形屋孫兵衛刊：黄表紙の始め)</p>	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">安永 3年 鳶屋重三郎版元として初めて吉原細見「一目千本花すまひ」刊行。 安永から天明にかけて活躍</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">この頃須原屋一統著しく発展 須原屋市兵衛活躍(宝暦～文化)</p>	<p>安永 4年 「幽遠隨筆」絶版<142-29> (1775) 入江昌善著</p>

天明元年 (1781)	安永 5年 (1776)	「青楼美人合姿鏡」 (吉原風俗絵本) <WA32-4>		
		「雨月物語」 <201-92> (大坂 野村長兵衛等刊)		
	安永 9年 (1780)	「絵本水や空」 <190-291> (耳島斎画)		
	天明 3年 (1783)	「三冊図」 <WA33-9> (司馬江漢画：日本で最初の エッチング)	明和～天明にかけて、江戸に おける上方の出店閉じること 多し	
		「吉原細見五葉松」 <851-110> (葛屋重三郎刊)		
	天明 4年 (1784)	<small>みなぐいあわせ</small> 「手拭合」 <199-211> (山東京伝画)		天明 4年 暦類版行の乱れを取り締ま (1784) る
	天明 5年 (1785)	<small>ものみがおか</small> 「画本物見岡」 <京乙-255> (墨摺絵：鳥居清長画)	天明寛政期に江戸の出版画期 的發展をとげ、上方を上回る	
	天明 6年 (1786)	「三国通覧図説」 <別4-30> (林子平：須原屋市兵衛刊)		
	天明 6年～文政 2年 (1786) (1819)	「群書類従」刊行 開始 <127-1>		
	天明 7年 (1787)	「紅毛雑話」 (森島中良)		
	「彩色美津朝」 <WA32-13> (鳥居清長画)			

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
寛政元年 (1789)	天明 8年 「画本虫桑らみ」 <WA32-8> (1788) (狂歌絵本：喜多川歌麿画： 蔦屋重三郎刊) 「蘭学階梯」 <108-70> (大槻玄扨)	天明 8年 京都諸仲間廃止 (1788)	天明 8年 「文武二道万石通」絶版 (1788) <207-174>
	[寛政初年の頃] 「潮干のつと」 <WA32-7> (狂歌絵本：喜多川歌麿画： 蔦屋重三郎刊)		寛政元年 「天下一面鏡梅鉢」絶版 (1789) <207-196> 「鸚鵡返文武二道」絶版 <207-195> 「黒白水鏡」絶版 <208-372>
	寛政 2年～文政 5年 「古事記伝」 (1790) (1822) <特1-893> (本居宣長：鈴乃屋蔵板：版 元 名古屋 永楽屋東四郎)		寛政 2年 出版取締りに関する触書、 (1790) 相次いで出る。『新規の版 行、時事を一枚絵などにす ること、新奇・異説に関す ること禁止、好色本は絶 版、新版は作者・版元の実 名を奥書に書く、双紙絵本 など古代のことに仮託して 不届きなものを作ることを禁 止、浮説を写本にして貸し 出すこと禁止、華美・贅沢 に対する抑制、書物屋相互 の“吟味”を嚴重にすること』
寛政 3年 (1791)	「海国兵談」 <別13-50> (林子平)	寛政 3年 板木屋仲間再結成 (1791)	寛政 3年 山東京伝著洒落本三部絶版 (1791) 「錦之裏」 <208-28> 「娼妓絹麗」 「仕懸文庫」 <京-294>

寛政 4年 「地球全図」 <別9-9>
(1792) (司馬江漢画：最初の銅版世界図)

寛政 8年 「万葉集略解」 <837-3>
(1796) (名古屋：永楽屋東四郎等刊)

寛政 9年 「東海道名所図会」
(1797) (地誌) <140-71>

寛政10年 「辰巳婦言」 <京乙-141>
(1798) (洒落本：式亭三馬)

寛政 6年 名古屋で書林仲間でき
(1794) る

寛政 6年～ 7年 蔦屋、写楽版画
(1794) 140数点出版す

寛政 9年 蔦屋重三郎没
(1797)

寛政 9年 昌平坂学問所、幕
(1797) 府直轄となる

寛政11年 官版（幕府出版
(1799) 物）の出版始まる
：幕末まで二百数
十種に及ぶ

京伝、蔦屋、行司処罰される

寛政 4年 「海国兵談」絶版
(1792) <別13-50>
「三国通覧図説」絶版
<別4-30>
著者林子平塾居
版元須原屋市兵衛重過料

寛政 5年・寛政2年の取締令の強化
(1793)・読売（瓦版）の横行につい
ての取締り

寛政 7年 好色・華美な浮世絵の取締
(1795) り。（浮世絵の値段を16丈
以下とするなど）

寛政10年 「辰巳婦言・船頭深話」絶版
(1798) <京乙-141>

寛政11年 好色・華美な錦絵に対する
(1799) 検閲を旨とする布令出る

「南瓢記」絶版 <147-91>
枝芳軒著

「俠太平記向鉢巻」絶版
<207-468>
著者式亭三馬手鎖

時代	出版物	出版者・出版業	出版法制その他
	寛政11年 (1799) 「東遊」 <か-19> (絵入狂歌本：葛飾北斎画：蔦屋店頭の挿し絵あり) 「儀礼図」 <848-164> (官版)		
	寛政12年～ (1800) 「集古十種」 <234-3> (藩版：松平定信編)	寛政12年 京都諸仲間再興 (1800) 各藩に藩版奨励	寛政12年 「南門鼠」絶版 <京-112> (1800) 鹽屋艶二著
享和元年 (1801)	享和元年 (1801) 「孝義録」 <136-197> (官版)		享和元年 幕府の絵草紙に対する弾圧 (1801) により、歌川豊国、勝川春 英、喜多川月磨ら処罰され る
	享和 2年 (1802) 「道中膝栗毛」初編刊 (滑稽本：十返舎一九) 「的中地本問屋」 <207-541> (十返舎一九：草双紙出版の過程を描く)		享和 2年 “小冊物四拾五通” (1802) 洒落本類一括して絶版
	享和 3年 (1803) 「疱瘡請合軽口ばなし」 <244-373> (咄本：紅摺：まじない本)		
	享和 4年 (1804) <small>やくしあわせがみ</small> 「俳優相貌鏡」 <ろ-62> (役者絵本：歌川豊国画) 「作者胎内十月図」 <207-589> (山東京伝：草双紙の発想から出版までの過程を描く)		

文化元年
(1804)

文化 3年「雷太郎強悪物語」
(1806) <208-258>
(式亭三馬作 歌川豊国画
: 合巻、流行の始め)

文化 4年 「椿説弓張月」<特1-1947>
(1807) (読本)

文化 5年 「西説医範提綱積義付図」
(1808) <WB38-6>
(日本最初の銅版解剖図)

「韓非子翼蠹」 <別5-4>
(木活字本)

文化 6年 「狂歌百人一首」
(1809) <181-195>
(角丸屋甚助刊)

文化 7年 「新訂万国全図」<別5818>
(1810) (高橋景保: 銅版画)

文化年間に角丸屋甚助、万笈堂
英平吉、活躍

文化 4年 「膝栗毛」初～6編を
(1807) 版元村田屋次郎兵衛、
上方での販売申請をする。
江戸地本が上方売
弘めの正式ルートにの
った最初

この頃
貸本屋 江戸 12 組 656人
大坂 約 300人

文化元年 大坂で「絵本太閤記」絶版
(1804) <107-163>

文化 2年 「懐中道しるべ」絶版
(1805) <800-10>
版元角丸屋甚助ら処罰

文化 4年 絵入り読本同小冊子類の検
(1807) 閲強化。読本改掛肝煎名主
4名任命される

文化 6年 「北海異談」絶版
(1809) <191-353>
(写本: 大惣本)
著者南豊亭永助死罪
版元須原屋五兵衛

時代	出版物	出版者・出版業	出版法制その他
	文化 7年 (1810) 「訳鍵」 <216-131> (蘭和辞書)	文化 8年 須原屋市兵衛没 (1811)	
	文化 9年 「近代著述目録」 (1812) <027.3-Tu832kn> (英平吉刊：江戸期に刊行された最初の著者目録)	天文方に蛮書和解御用掛を設け、馬場貞由、大槻玄沢ら「厚生新編」の翻訳編集開始。幕府の洋書翻訳のはじめ	
	文化10年 「双蝶記」 <辰-53> (1813) (読本：序文に貸本屋の役割を示す記述あり)		
	文化11年～天保13年「南総里見八犬伝」 (1814) (1842) <別3-2> (読本：版元山崎平八は貸本屋でもある)		
	文化13年 「淇園文集」 <145-100> (1816) (木活字本：伏見版の活字を使用) 「大徳重校聖濟総録」 <W991-236> (木活字本：幕府医学館の刊行物)		
文政元年 (1818)	文政 4年 「浮世形六枚屏風」 (1821) <208-67> (合巻：柳亭種彦)		文政 6年 天明4年の暦類の取締令の (1823) 繰り返し

	文政 9年 (1826)	「重訂解体新書銅版全図」 (中伊三郎画) <別6623>	
	文政12年 (1829)	「泰西本草名疏」 <特7-410> (伊藤圭介：近代植物学のさ きがけ)	
	文政12年～天保13年 (1829) (1842)	「修紫田舎源氏」 <839-105> (合巻：柳亭種彦)	
天保元年 (1830)	天保 3年 (1832)	「春色梅児誉美」 <207-2829> (人情本：為永春水)	文政13年「An English and Japanese, (1830) and Japanese and English Vocabulary」 <833-cM48e> (最初の英和・和英辞書：バ タビア刊)
	天保 4年 (1833)	「植学啓原」 <特1-408> (わが国最初の体系的な西洋 植物学書)	天保 3年「San kokf tsou ran to (1832) sets」 <915-H412s> (日本語書名：三国通覧図説)
		「備荒草木図」 <特1-81> (救荒書)	
	天保 5年 (1834)	「江戸名所図会」 (地誌) <124-114>	
	天保 8年 (1837)	「舎密開宗」 <特1-855> (宇田川榕庵：化学書翻訳の 始め)	天保 8年「御代の若餅」絶版 (1837) <234-89> 歌川芳虎手鎖

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
	<p>天保13年 「和蘭文典」前編 (1842) <箕作家文書147> (箕作阮甫：蘭書の翻刻)</p> <p>天保15年 「隋書」 <222.047-Z35G> (1844) (高松藩)</p>	<p>天保12年 問屋仲間禁止 (1841)</p> <p>天保13年 大藩に出版勧誘の達 (1842)</p>	<p>天保10年 「算法地方大成」絶版 (1839) 秋田義一著 <113-91></p> <p>天保12年 「青標紙」絶版<YR12-57> (1841) 「殿居囊」絶版<YR12-58></p> <p>「泰平年表」絶版<182-40> 大野権之丞幽閉</p> <p>天保13年 出版取締令出る (1842) 『役者・遊女・芸者などの一枚摺の絵の版行売買の禁止、合巻、絵草紙に役者の似顔絵や歌舞伎の趣向を使用することや表紙上包に彩色摺を施すことを厳禁、異教・妄説を取り入れたもの今様風俗や人の批判、好色本は厳禁、曆書・翻訳物を含むすべての新版の書物は町奉行の許可をとること』</p> <p>「偽紫田舎源氏」絶版 版元鶴屋喜右衛門所払</p> <p>「江戸繁昌記」絶版 <840-13> 著者寺門静軒江戸払 人情本作者為永春水手鎖</p>

弘化元年 (1844)	弘化 4年 (1847)	「丹鶴叢書」 <117-2> (藩版)		弘化 4年 (1847)	「Sechs Wandshirme」 <Ba-590> (欧文に翻訳された最初の 文学作品：日本語書名 「浮世形六枚屏風」)
嘉永元年 (1848)	嘉永 3年 (1850)	オランダ政府、将軍家慶に 「スタンホープ型」手引印刷 機、欧文活字その他活版印刷 に必要な道具一切を贈る。			
	嘉永 4年 (1851)	本木昌造、創意により鉛活字 を作り「蘭和通弁」を印刷。	嘉永 4年 (1851)	問屋仲間再興の布告。	
安政元年 (1854)	安政 3年 (1856)	「シントツキス」 (Syntaxis of woordvoeging der Nederduitsche taal) <蘭633-638, 651> (蘭書翻刻本：長崎奉行所刊 ：わが国における近代的活 版印刷術による最初の出版 物)	安政 3年 (1856)	長崎奉行荒尾石見守、 活字板摺立方を設ける	
	安政 4年 (1857)	<small>ろびんそん</small> 「魯敏遜漂行紀略」 <199-258> (ロビンソン漂流記) 「水族写真鱗部」 <特7-151> (木版彩色本)			

時 代	出 版 物	出版者・出版業	出版法制その他
	安政 4年 (1857) 「英語箋前編」<W142-55> (メドハーストの英和辞書の 翻刻版)		[安政年間] 「増訂伊豆七島全図」 絶版 <131-202>
万延元年 (1860)	万延元年 (1860) 大鳥圭介、長崎において鉛活 字を鑄造し自訳「築城典刊」 を刊行。 「Familiar method」 <428.24-P634f> (蕃書調所刊：初級英文法書)		
文久元年 (1861)	文久元年 (1861) <small>おきみなとき</small> 「童絵解万国噺」 <207-1695> (合巻：外国事情の紹介) 「ろしやのいろは (ルスカヤ ・アプスカ) <別13-3> (ロシア語教科書) 「亜墨利加洲内華盛頓府之景 銅板之写生」 <別7423> (藍摺) 文久 2年 (1862) 「官板バタヒヤ新聞」発刊 (新聞の始め) <WB43-82> 「仏郎西単語編」 <443-Y65h> (洋書調所刊)		

はなごもきつねのそうし
「花裘狐草紙」<W114-13>
(合巻：仕掛本)

「横浜開港見聞誌」
<201-54>

文久 3年
(1863) 「英語箋後編」<W142-56>
(メドハーストの和英辞書の
翻刻版)

元治元年
(1864) 「築城典刑」 <W442-2>
(陸軍所刊)

慶応 3年
(1867) 「西洋雑誌」創刊<Z1-378>
(最初期の雑誌)

「俄羅斯及亜西亞ノ図」
(陸軍所刊) <202-146>

(つちや・のりよし こだま・ふみこ 図書部古典籍課)
(とざわ・いくこ おかむら・みつあき 参考課)